

研究課題	中学校総合的な学習の授業における、ICT 機器を活用した探究的な安全教育のカリキュラムの研究開発
副題	～ICT 機器を用いて自己と他者をつなげる協働的な学習の進め方～
キーワード	安全 探究 ICT 総合的な学習の時間
学校/団体 名	国立国立大学法人大阪教育大学附属池田中学校
所在地	〒563-0026 大阪府池田市緑丘 1-5-1
ホームページ	https://f.osaka-kyoiku.ac.jp/ikeda-j/

1. 研究の背景

本校は、隣接する附属池田小学校で平成13年6月8日に起きた殺傷事件を受けて、学校が安心安全な場所であることを目指し、安全教育に取り組んできた。その後、学校内における「安全」だけでなく、生徒が将来にわたって安全安心な生活を送ることや、安心で安全な社会作りの一員となる生徒の育成を目標に、安全教育に取り組んできた。今回、新型コロナウイルスによる未曾有の事態を受け、改めて、未知なる危機に対応可能な「安全」に関する資質能力の育成の必要性を感じる事となった。また、本校内の実践だけではなく、汎用性のあるカリキュラムと「指導の手引き」を開発することで、広く多くの学校の安全教育に貢献できることを目指す。

また、これまでも各教科において、「主体的、対話的で深い学び」を実践し、資質能力の育成に取り組んできた。ICT 機器についても1人1台の制度を導入して3年目になり、これまで ICT 機器の効果的な利用について実践を重ねてきた。本研究では、総合的な学習の時間に、効果的に ICT 機器を利用しつつ、「主体的、対話的で深い学び」を実践し、「安全」に関する資質能力の育成を目指す。

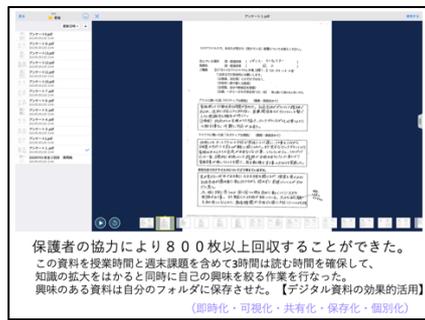
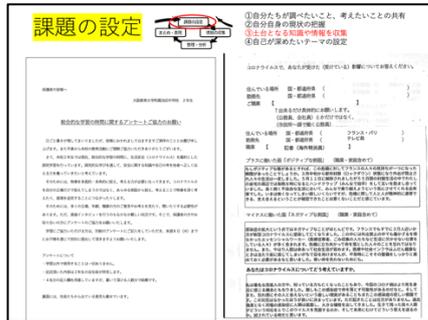
2. 研究の目的

近年、東日本大震災のような自然災害や新型コロナウイルスのような予測不能な危機に直面し、人々の「安全」に対する意識は高まっている。これからも起こると予想される多種多様な危機に対して、「予防」、「回避」、「軽減」といった対応する力は必要で、「学習指導要領」（平成29年3月文部科学省）や「第2次学校安全の推進に関する計画」（平成29年3月閣議決定）などにおいても、学校における安全教育の推進が強く求められている。その一方で、多くの学校では避難訓練や各教科の中で「安全」に関連づけた学習を行なっているが、全ての危機に対応して安全教育を行うことは難しい。多種多様な危機に対しては、主体的に考え適切に判断し行動することができることや、周りの人と協力して安心で「安全」な社会づくりを行うことができる、「安全」に関する資質能力の育成が必要と考える。

そこで本研究は、中学校総合的な学習の授業において、ICT 機器を活用した探究的な安全教育のカリキュラムの研究開発をし、生徒の「安全」に関する資質能力の育成を目指しつつ、広く多くの学校の安全教育に貢献できることを目標とする。

(3)土台となる知識や情報を収集

保護者への協力依頼、ICT 機器を活用したデジタルデータでの活用



(4)自己が深めたいテーマの設定



課題設定の段階で、丁寧に段階を追って取り組ませることで、本当に探究したいテーマを設定することが可能となり、生徒自身が主体的に取り組む姿が見られた。

②情報の収集では、生の体験（アンケートやインタビューや現地調査）を大切にさせる。

また、ZOOM を使ったインタビューや Google フォームを活用してのアンケート調査、ボイスメモを利用した録音など ICT

も活用した。

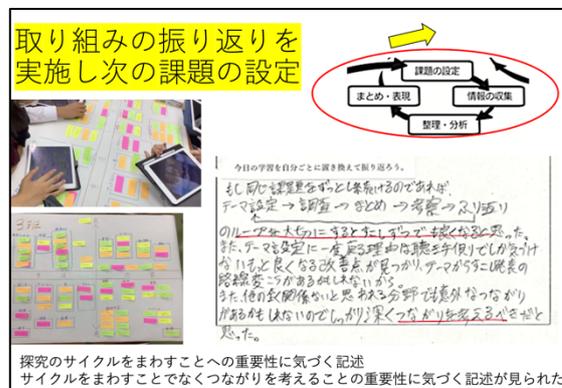
③効果的な整理・分析を行う 4 ステップ

- (1)自己の調べたものを、シンキングツールを用いて可視化し、整理しながらまとめる。
- (2)テーマが近い友達（等質グループ）での意見交流・共有
- (3)テーマが違う友達（異質グループ）での意見交流・共有
- (4)友達の意見と自己の整理を比較関連づけて再整理・再分析の実施

④まとめ・表現

教職員含めた全校生に自己の発表を聞いてもらい、意見をもらう。発表は中間と最終の2度行う。

中間後に自己の発表や取り組みに対する他者からのフィードバックをもとに再探究を実施。



生徒が作成したスライド↓



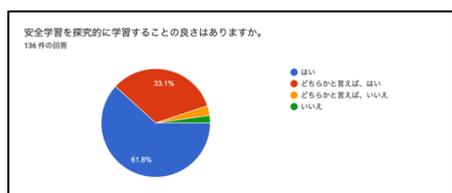
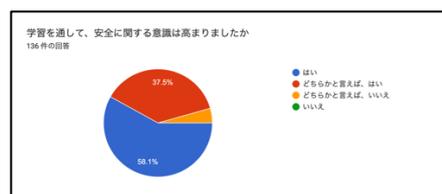
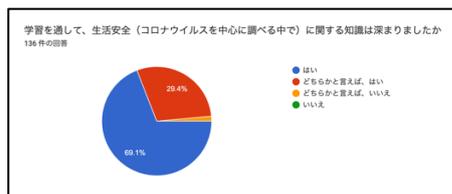
知れば、悪影響や悪いという部分に偏ることがなくなったことがわかった。学習を通して多面的・多角的に捉えることができたということが示唆されるのではなかろうか。

ICT 機器に関して、4つの場面全てで活用した。それぞれの良さをまとめたものが右の表の形である。この中でも特に、課題設定場面等で膨大なデータを扱う時、また発表資料のように何度も加筆修正を行う場面においては非常に有効であると感じられた。

単元終了後に、実施したアンケートは以下の通りである。安全に関する意識、知識、安全教育を探究的に学習する良さを感じている生徒は 95%程度であった。このことから、探究的な安全学習を行うことが生徒の安全に関する資質能力の向上につながる姿が見られると考えられる。

	生徒の活用	効果
課題設定	毎回のワークシートの選択 (デジタルとアナログ) 土台となる知識や情報の収集 探究テーマの設定	個別化、保存・蓄積化 共有化、可視化、個別化、保存・蓄積化、即時化、軽量化 個別化
情報収集	アンケートフォームの作成 ボイスメモの活用 オンラインミーティング	効率化 効率化、保存・蓄積化、再現化 超越化
整理分析	(作成資料の加筆修正) プレゼン資料の作成	深化、共有化、可視化 可視化、効率化、活性化
まとめ表現	作成した物をタブレット端末 を活用して発表 自身の発表の記録	可視化、効率化、活性化 保存・蓄積化、可視化、即時化、共有化

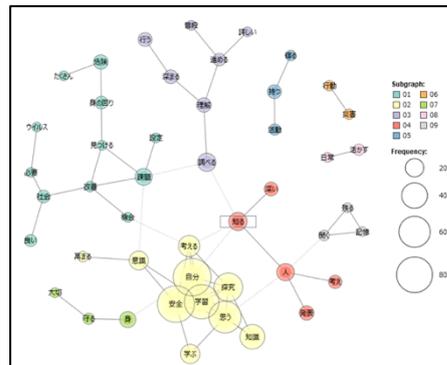
単元終了後に探究的な安全学習に関するアンケートを実施した。その結果、知識面、意識面、そして探究的な学習の良さについて95%の生徒が肯定的な意見を持つ結果となった。



また、探究的な学習の良さについての記述内容を KH-coder で分析したところ、出現回数の上位60語は(表2)となった。共起ネットワーク図(最小出現数5 上位60語)(図2)を見ると、「学習」「安全」「探究」「思う」「自分」がつながり、そこから「考える」「意識」「学ぶ」「身」

「探究」「知識」「人」「知る」へとつながる。探究的な安全学習を進めることが自分ごととして捉え、考えることにつながりそこで知識を得たり学びが深まったりすることが考えられる。

	抽出語	文書数 (h5)		抽出語	文書数 (h5)		抽出語	文書数 (h5)
1	自分	64	21	深い	10	41	見つける	5
2	安全	60	22	持つ	9	42	高まる	5
3	学習	56	23	身の回り	9	43	残る	5
4	思う	54	24	進める	9	44	実際	5
5	探究	46	25	発表	9	45	社会	5
6	知識	31	26	危険	8	46	詳しい	5
7	考える	25	27	活かす	7	47	設定	5
8	意識	21	28	考え	7	48	得る	5
9	学ぶ	20	29	守る	7	49	必要	5
10	人	17	30	良い	7	50	普段	5
11	生活	17	31	行動	6	51	活動	4
12	知る	17	32	災害	6	52	高める	4
13	調べる	17	33	自身	6	53	自ら	4
14	身	15	34	聞く	6	54	守れる	4
15	課題	14	35	たくさん	5	55	出る	4
16	やすい	12	36	ウイルス	5	56	得茶	4
17	理解	12	37	改善	5	57	整理	4
18	深まる	11	38	感じる	5	58	生きる	4
19	行う	10	39	機会	5	59	積極	4
20	情報	10	40	記憶	5	60	多角	4



6. 今後の課題・展望

学習後の生徒アンケートで、意識が上がらず知識が身につかないと感じている生徒や、安全探究学習の必要性を感じていない生徒も少なからずいるという部分に関しては、課題が残っている。そう答えた生徒の記述内容を見ると、小学校時代の学びと変わらないという意見が多く、附属小学校で学んできた内容（安全科）以上の学びを提供できていないところに課題があることがわかった。附属池田小学校（安全科）のカリキュラムを見直すとともに、附属小学校との連携を強化し、学びに連続性を持たせたカリキュラム作りをしていく。また、本校での取り組みが他校でも活用できる汎用性の高いものであるのかを検証していく必要がある。そのために、今後も探究的な安全教育を継続して実施し、研究発表会や学会等で取り組みの発表を行う。また、学校 HP を通じて取り組み成果の掲載、希望する学校には単元計画表やワークシートなどのデータ DVD—R の無料配布を行い、発信を行っていく。また、単元計画を立てるにあたっての相談や実施中の取り組みに対する相談や助言なども希望する学校には実施していきたいと考える。

7. おわりに

今年度は、パナソニック教育財団から研究助成を受け、ICT を活用した総合的な学習の時間に学年団を中心に取り組んできた。今年度の取り組みをさらに充実させるためにも、今年度の取り組みを評価、見直し、来年度以降も計画的、継続的、効果的に ICT の利活用を推進していきたい。また、本校の活用に留まることなく、日本全国に安全教育を推進していきたいと考えている。最後に、このような機会を与えていただいた、パナソニック教育財団関係者の皆様に紙面を借りて深くお礼を申し上げます。

8. 参考文献

- 文部科学省（2019）『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総合的な学習の時間編』東山書房
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 総合的な学習の時間』東洋館出版社
- 田村学・黒上晴夫著（2014）『こうすれば考える力がつく！中学校思考ツール』小学館